



GOOD NEWS とぎのこえ

War Cry

4月号

福音版
2024
April
No.2868

二〇二四年 四月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

闇から光へ 死から命へ移される勝利

中島 美和

春がやってきました。わたしは寒くて暗い冬がともも苦手なので、固くなっていた地面から球根の黄色の花が顔を出しているのを見

つけると、春の到来に気持ち明るくなります。枯れ木のように枝に桜がほころび始めると、命が息づいているという希望を覚え



ます。わたしの故郷の長野はひととき寒さが厳しいのですが、母はよく、冬が厳しい分、春がありがたく感じる、と言っていました。確かに雪解けの後、桜と一緒にあんなに咲き乱れる光景は、えもいわれぬ美しさが

へと移してくださる勝利です。その瞬間に起きた出来事は一生忘れません。〈ああ、この世界にいる間のわたしの人生は悩みが多いけれど、ここがすべてではない。イエス・キリストという方は、その先に天国という安息の場所を用意してくださっている。この

美しさに感動する日もあれば、疲れ、打ちのめされそうになる日もあるかもしれませんが、そして誰も最後に迎える死を避けることはできません。これが終着点であつたなら、孤独や虚しさ、不公平さを覚えることのほうが多いのが人生かもしれません。

若い時に長野で大変お世話になった方が、年が明けてまもなく地上での生涯を終えられました。「地上での生涯」と言うのは、その先に次のステージがあるからです。わたしにそのことを教えてくれたのが、この救世軍の士官（伝道者）でした。当時、生きる意味を見失って闇の中でもがいていたわたしに、

わたしにとって、這い上げられない泥沼から引き上げられる、まさしく救いの経験でした。この福音を伝えてくださったこの士官は命の恩人です。その方がいなくなるというのとはとても寂しいことですが、けれどもその生涯をかけて取り次いだ神の言葉の約束のとおり、その魂は今、天国にあって安息の時を過ごしておられることを思います。

けれども、キリストを救い主として信じる者は、体は滅びても、永遠の命を得ることができると言われています。肉体の死が終わりではない、地上での生涯がすべてではない。冬のとぎに春が巡り来るように、天国で新しい命に生きることができるといいます。これを読んでおられる皆様はいかがでしょうか。この世の命が終わった後に続く天国の希望を自分のものでしておられるでしょうか。イエス・キリストは言われました。

「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」

人生はよく四季に例えられます。春に新しい命が生まれ、夏から秋へと青年期から壮年期を過ごし、そして人生の終盤である冬を迎えます。その間、その人その人で、さまざまな心の景色を経験されるでしょう。

「わたしを信じる者は、死んでも生きる。」（ヨハネによる福音書11章25節）

この春、その約束が確かだというしるしを、命の息吹の中に見いだしてみませんか。

（救世軍士官（伝道者））



すべて神様のお導きのおかげで……

西川 康之さん

(救世軍桐生小隊所属)

幼少期から教会に通い、聖書の御言葉みことばに親しんでクリスマスチャンとして歩んでこられた西川さん。来し方かたを振り返り、人生の節目節目にいただいた神様のお導きとお恵みの数々を語っていただきました。

クリスマスチャンホームに育って

私は、祖母と母が熱心な救世軍の信徒の家庭に生まれ、赤ん坊の時から桐生小隊(教会にあたる)に通っていました。

私が幼少期の桐生小隊は、子どもの数が今では考えられないほど多く、日曜学校に行くのがとても楽しみでした。とは言っても、聖書の話や友人に会うことが目的でした。小隊の裏の空き地で野球をしたり駄菓子屋に行ったりして、とにかく日曜日待ち遠しかったです。

この時期に神様からいただいたお恵みのうち一番と思うのは体力です。体が弱くて風邪をひくとすぐ熱を出し、学校をよく休みました。母がこれでは大変と思ったのか、小学校五年生になったころ、ある栄養剤のような薬を購入して飲ませてくれました。するとそれが効いたのか、それまであまり食べなかつた白米を



昭和43年のクリスマス子ども祝会(壇上前列1番左が筆者)

ことができず、有名な聖句もいくつか暗記したりもしました。しかし知識が深まっても、イエス様が自分の罪のために死んでくださったこと、救ってくださったことについての気づきはまだまだありませんでした。

救いを自然に受け入れられた時の感動

心に変化が訪れたのは、大学二年の夏休みです。その当時、「ラブ・メッセンジャーズ」という関東東北地区の青年グループがあり、その伝道旅行が東北の地で約一週間おこなわれました。

私もそれに参加しました。青年たちが自ら集会のプログラムを作成し、役割を分担しました。野戦(野外伝道)もおこないましたし、劇の作成、上演もしました。

集会が連日、複数回開かれ、まるでシャワーのようにたくさんのお恵みが次々と私の心に降り注がれました。その時です。「イエス様が十字架で血を流されたのは、この私の罪のためだったのだ!」と自然に受け入れられ、涙が流れているのに気づきました。そして、元

ここにいました。

救いの経験をした後、私の考え方や性格に変化が生じました。それまでは人々を笑わせたりふざけたりすることが好きな人間でしたが、少し落ち着き、慎重に物事を考える性格に変わっていったのです。その後、日曜学校の教師として生徒の前で聖書の話をする機会が与えられ、小隊候補生教官という役割も与えられて、その奉仕もおこなうようになりました。

一つではない不思議な出来事

大学四年の夏休みに韓国へ伝道旅行に行った時です。ものすごい霊的なパワーをもった韓国の救世軍の様子を目の当たりにし、活力をいただいで帰国しました。韓国に行くことは前もって大学のゼミのメンバーに伝えていましたが、帰国後に「西川が変わった!」とみんなから言われ、韓国で何があったのか聞かれました。それに対しては軽い報告と桐生小隊に来ればわかる、と言っただけでしたが、その後間もなくゼミ生の二人が桐生小隊の聖別会(礼



の夜は当然のように宴会が開かれました。自己紹介の順番が私に回ってきた時、クリスチャンであることは触れずに話を終わろうとしました。すると、年配の司会者が「西川は救世軍に行っているよな。社会鍋ってどんな感じで作るのか、今ここで実演してみよう。もうびつくりしました。まさかこんな宴会の席で実演とは。恥ずかしさもありませんが、救世軍のPRになると思っ

たが、救世軍のPRになると思っ手マイクを持つポーズでがんばってやってみました。すると「へ〜」と言う声と拍手が聞こえたのです。一同が、興味津々で見てくださったことは嬉しかったです。あの日帰れなかったのは神様のお導きだったに違いありません。イエス様を信じていると、いろいろ不思議なことが起こるのですね。

「会」を立ち上げることが実現しました。私以外の四人も同じことを望んでいたそうです。そして発起日にギデオン協会の方をお呼びして、大学の食堂前で聖書を生徒に配ることになりました。すべてが順調でした。また、就職して二年目のある冬の土曜日、会社の仲間たちとスキーに行った時です。私は日帰り組の車に乗って帰る予定でしたが、どうしたのかその車は私を忘れて出てしまったのです。仕方なく宿泊することになりましたが、翌日の聖別会に出られないことがすっかりしてしまいました。その

今も続く 与えられた職業

大学卒業後すぐに一般企業に七年勤めました。その後、子どもに何かを教えたい！という気持ちが起こり、学習塾の講師へと転職することになりました。

きつかけは、大学生時代に家庭教師をしていたこともあり、日曜学校教師や小隊候補生教官の奉仕をさせていただいたことで子どもが大好きになったことが大きく関係しています。そしてここでも神様のお導きを感じました。塾長と気が合っすぐに採用が決まったこと、その塾の理科の授業で、大学や一般企業で養われた専門的知識が用いら

れたこと、さらに一般企業で学んだ謙虚さや元気な発声などが塾での生徒や保護者の対応に生かされていることです。まるで一本のレールに乗っているかのように前進しているのを感じました。定年退職後も、再雇用で同じ職場で続けて勤務できていることから、神様から与えられた職業だと思感謝しています。

今、改めて感じる 感謝

三十一歳で結婚し、二人の息子が与えられました。長男は現在も桐生小隊につながっています。九十二歳の母はオルガニストとして用いられ、私も聖別会前にギターを用いて賛美と祈禱会の進行を担当しています。



長男の5歳のお祝いに、母、妻と

このように大変恵まれた毎日を送ることができているにもかかわらず、私の心の中は平安でないことも多々ありました。父がノンクリスチャンで小隊活動に批判的だったこと、私自身も妬み深かったりいろいろな欲に負けて神様から離れたことがあること、準備不足で過ちを繰り返しては後悔をすること等です。しかし、そんな時でも神様は常に私に希望をもたせ、不思議とその場に合った御言葉で私を導いてくださることを感じます。父は既に亡くなりましたが、晩年は救世軍のことを理解してくれました。そして信仰をもつまでには至りませんでした。集会に二度出席するまでになりました。失望を希望に変えてくださったのです。

昨年からは聖別会後に「学び会」が開かれ、そのテキスト『人生を導く五つの目的』(リック・ウォレン著)の中に、「あなたは尊い存在であり、この世に二つとないデザインで造られた。そして永遠に生きる存在として造られた」とあります。こんなにも神様から大事にされていることを改めて知り、神の国に入れるようにこれからはすべてを委ねて導かれるままに従っていかうと思ひます。



現在の桐生小隊の皆さんと(左から2人目)

*国内外で聖書の贈呈や、ホテル、病院などへの聖書備えつけの事業を通し、キリスト教の伝道活動を後援している国際的なグループ。会員はクリスチャン実業家が多い。

創立者 ウイリアム・ブース 大將 リンドン・バッキンガム(万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブン・モーリス(救世軍本営 東京都千代田区)



世界をみつめて

〈日本〉令和6年能登半島地震被災地への支援活動—食事(炊き出し)支援

救世軍は「能登ヘルプ」(能登地震キリスト災害支援会)に加わって支援活動をおこなっています。2月7日(水)には、キャンティーンカー(移動給食車)による食事支援をおこないました。輪島市門前中学校にて、中学校に避難されている方々及び近隣の方々を対象に、昼食(野菜炒め、肉じゃが、ごはん)300食を提供しました。



〈ウクライナ〉冬期の衣料配布

ウクライナとロシアの紛争が始まってから2年が経過しました。救世軍はウクライナで引き続き困難な中にある人々を支援し、共に歩んでいます。冬期には、温かい衣料を必要としている高齢者に衣服や寝具を提供しました。ウクライナの平和を願いながら救世軍は支援を続けています。



〈ジンバブエ・ザンビア〉コレラの流行への対応

アフリカ東部と南部で数年ぶりに発生したコレラの流行で13カ国が影響を受けていますが、救世軍はジンバブエとザンビアで対応しています。

ユニセフによると「2024年1月15日時点で、この地域で20万件の症例が報告され、死者は三千人以上に上る」とのことです。ジンバブエではコレラの発生は2023年に始まり、2万件以

上の症例が報告され、400人が死亡しました。隣接するザンビアでは1万5千件の症例が報告され、560人が死亡し、発症者の31%は5歳未満の子どもとなっています。コレラは放置されると数時間で死に至る場合もある急性の下痢症で、安全な水と基本的な衛生施設にアクセスできない人が最も影響を受けます。感染者の多くは軽度ないし無症状の場合もありますが、発症した場合には経口補水液や静脈内輸液、抗生物質で治療する必要があります。

救世軍ではコレラが流行中のコミュニティに石鹼、塩素、清掃器具、手洗い設備を提供し、衛生意識の向上と予防的行動を促進するプログラムを実施しています。



救世軍とは? What is The Salvation Army? 心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、世界134の国で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウイリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。日本では1895(明治28)年に英国から士官(伝道者)たちが来日して、救世軍の働きが始まりました。

全世界で、救世軍はアルコールを飲まない生き方を積極的に推進しており、救世軍の兵士(信徒)はアルコールなしの生き方を選びます。これは創立以来の立場であり、アルコールの乱用が身体と精神に引き起こす多くの疾患、また個人のみならず家族や地域社会に及ぼす害を憂慮することから生まれたものです。アルコールなしの生き方もあることを、救世軍は示し続けています。救世軍の国際見解表明「アルコールと社会」はホームページで閲覧できます。

救世軍公報 ときのごえ
発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日
定価 福音版/1部40円、広報版/1部100円(税込)
クリスマス特集号(12月1日号)/1部100円
振替 00180-5-4400
発行兼 救世軍
印刷人 代表者 スティーブン・モーリス
編集人 山谷 真
発行所 救世軍本営 https://www.salvationarmy.or.jp
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
電話 03-3237-0881(代表)
Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 ピーアンドエス

聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。
【取り扱い支部】
救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目の該当するもの及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。
・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。
・『ときのごえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。

☆『キッズ・ゴスペル』コーナー☆ (子ども向け紙面)
左のQRコードから、今月の『キッズ・ゴスペル』を閲覧できます! 聖書のお話も動画で見られます。ぜひ、ご覧ください!

酒害にご注意ください!
新年度を迎える季節、歓迎会等での急性アルコール中毒の事例が毎年、後を絶ちません。また、少量の飲酒も健康に害を及ぼす可能性があることが近年の研究で明らかになってきています。
多くの人はアルコールを安全に適量を接種していると考えますが、アルコールは心身に害を及ぼし、依存症になる可能性を常に伴っていることを覚えてください!